

令和5年度入学式

式辞

本日ここに、山梨県知事代理長田 公（おさだ こう）副知事をはじめ山梨県内各界の代表の皆様、また関係機関・組織の皆様のご臨席を賜り、国際政策学部93人、人間福祉学部85人、看護学部106人、以上3学部合計284人、及び大学院看護学専攻修士課程8人、博士課程2人の大学院合計10人の新入学生を迎え、令和5年度入学式が開催できますことは、私ども教職員ならびに在学生にとりまして大きな喜びであります。この三年間にわたり、新型コロナウイルスのパンデミックにより、通常とはまったく異なる環境で、勉強に励まれ、入試を乗り越えられてこられた皆さんに、心より敬意を表します。

また、入学生の皆さんを今日まではぐくんでこられたご家族・ご親族の皆様、さらに関係するすべての皆様に、心よりお慶びを申し上げる次第です。

今、皆さんはこれから始まる大学生活に大きな夢と希望を抱かれていることと思います。山梨県立大学では、全ての教職員がそれぞれの立場から、皆さんの心に寄り添い、未来社会にも調和する質の高い教育を行っていくことをお約束いたします。

山梨県立大学は、その前身が山梨県立高等看護学院および山梨県立女子短期大学にあり、系譜は昭和28年にさかのぼります。3学部1研究科を擁する総合大学としての出発は平成17年で、今年で丸18年をむかえました。人と言えば身体的、精神的、社会的に成熟した成人として認められる年にあたります。本学も地域における揺るぎない拠点大学へと成長し、地域を支え、地域未来を先導する役割を確実に果たすとともに、総合大学としてさらに世界へ発展していく起点の年となります。学部および大学院新入生の皆さんは、こうした節目の年に、いわば第二、第三の学びのステージに入ることになります。大学と共に、大きく飛躍して行ってほしいと思います。

本学の理念の一つは「未来の実践的担い手を育てる」ことにあります。学生一人一人に向き合う、少人数教育を推進しており、担任制・チューター制、少人数ゼミ、地域でのフィールドワーク、キャリア形成支援などを取り入れたきめ細やかで実践的な学術指導が展開されています。これにより、全国トップクラスの高い就職率と国家試験合格率（社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、看護師、保健師、助産師など）をあげており、国際政策、保育、教職の分野でも実践力を備えた多くの専門人材が育ち、実社会で活躍しています。

社会が知識集約型へと複雑化、高度化し、全ての分野で高い知識や技術が要求される現在、高度専門人材の育成も大学の重要な責務です。本学の大学院看護学研究科は、平成14年の修士課程開設が出発であり、昨年度には大学院開設20周年記念講演・シンポジウムが開催

されました。これまで138人を超える修了生を送りだしており、病院、訪問看護ステーション、行政、教育研究機関などで医療看護を牽引する高度専門人材として活躍しています。

一方、先端的な実践知を身につけるための新しい副専攻課程も全国に先駆けて開設されています。文部科学省の「大学による地方創生人材プログラム構築事業 COC+R」に採択された課程で、14～18単位で構成される複数のプログラムを、学生の希望によりプラスアルファの学びとして履修することができます。大学教員のみならず、産業界からも多くの講師陣を迎え、本学の学生のほか、社会人や他大学の学生も共に受講できることが特徴で、実践的な講義や演習、さらに受講生間の意見交換などを通して、地域の創生に寄与できる高いスキルを持つ人材を育成しています。昨年度からは高校生も一部の授業を受講し単位を修得できる仕組みを構築しています。地域人材を学生と社会人の共学のもと、産官学が一体となって育成していくプログラムは「学びのやまなしモデル」として全国から注目されることとなっています。

本年度は観光、地域デザイン、多文化共生、ビジネス・経営、起業（アントレプレナーシップ）の5つの分野で先端的かつ実践的なプログラムが展開されます。

地域人材育成事業は、県立の大学として地域未来の発展のために役割を果たしていく重要な事業であります。本学は平成25年度以降、文部科学省の事業である「COC（知の拠点事業）」、その発展型の「COC+事業」、「地方と東京圏の大学生対流促進事業」、そして今回の「COC+R事業」の4つの事業全てを、国公立大学の中で唯一獲得し、実施しています。昨年はそれらの事業に加え、山梨大学と共同でSPARCという新たな事業に採択されました。本学においては、国際政策、人間福祉、看護分野の各専門力に加え、分野横断的な実践力とデジタルリテラシー、即ちIoTやAI技術などを活用するスキルを併せ持ち、新たな価値を創造できる人材を学部教育の中で育成する事業で、今、準備が進められています。

今後も、我が国における地域人材育成事業を先導する拠点大学としてさらなる発展を目指していきます。

ところで、新入生の皆さんは、本学へ入学するにあたり、それぞれ思い描く夢や目的を持っていることでしょう。職業人として必要な専門知識や能力を身につける、社会に出て責任を果たすために専門力の涵養に加え、人格形成を行う、教員や友人、地域住民との人間関係を通して幅広い知識や豊かな感性を獲得するなど、一人ひとり異なる夢を抱いていることでしょう。その思いをどうか大切にしてください。

大学における学びの本質は、課題を見出す力と、それを解決する力を養うことにあると考えます。

このうち、課題を発見する力は、優れた直観と豊かな感受性、すなわち「感性」のはたらきに、深い教養があいまって発揮されます。山梨の豊かな自然と歴史や文化、学内外の人々との触れ合いの中で学びを展開し、幅広い知識を身につけ感性を磨くことで、課題発見力を大きく向上させることができるでしょう。地域は具体的な課題が生じる最前線である、と言われます。硬直的な一極集中社会の中心では見逃してしまう、多様な課題や学びの主題に出合えると思います。

課題を解決に導くのは、大学の重要な機能である「研究」です。一つの課題を解決するために、これまでの全ての知見をもとに仮説や問をたて、調査・実験・検証を経て、新たな事実や理論を見出していきます。

具体的な研究手法は、分野によって異なりますが、重要なことは物事に真摯に向き合い、奥底までとらえること、また自らの研究成果をゼミや学会などで公表し、学生仲間や教員、他機関の研究者からの評価、批判を受け、議論を戦わせつつ研究をすすめていくことにあります。他人との議論の中では、自分の説を否定されることがほとんどだと思います。しかし一方で、いかに多様で斬新な、ものの見方があるのかを気づくことになるでしょう。自分の説の間違いに気づけば、修正し、再検証を繰り返した上で答えを出していく。そこにこそ真理が見いだされ新たな価値が創造できるのだと思います。

大学での学びは、高校までとは異なり、自発的で能動的なものです。待ちの姿勢では何も得ることができません。自らの意志に従って、自発的にまた積極的に学びに取組み、自らの責任において行動するという、発想の転換が必要だと思います。

既存の概念を疑うこと、批判すること、そしてそこに問いをたてることから大学での学びが始まります。研究に限らず、授業や普段の生活の中で、自ら課題を見つけ、問いを立て、調べ、考えて、仲間や教員との語らいや議論を通してそれを解決していく、その過程を通して必ずや何かが見つかるはずで、今はまだ、何も見えていないかもしれません。しかし、そこでつちかう学びが、皆さんがやがて歩むべく未来への道にかならずや光をさしてくれることでしょう。

山梨の自然は本当に豊かです。学び舎から遠くくっきりと眺めることができる富士山や四方の山脈、今この時期に甲府盆地をピンク色に染める桃源郷、それに続く新緑の美しさや枚挙にいとまがありません。この豊かな自然と悠久の歴史・文化に育まれたこの地は、皆さんのために与えられた最上のキャンパスといえるでしょう。ためらうことなく「自分の学び」を全力で展開し、未来への礎を築いていこうではありませんか。

本日は、誠におめでとうございます。

令和五年四月五日

山梨県立大学理事長・学長 早川正幸